

厚真町内のアイヌ民族の歴史に関する遺跡ごとの主要成果一覧表

厚幌 1 遺跡：平成 14（2002）・15（2003）年度ほか発掘調査

道内最古の山間部狩猟場での大木に祀る送り儀礼跡（17 世紀中葉）

上幌内モイ遺跡：平成 16（2004）～19（2007）年度発掘調査

チャシ跡（祭祀場跡）の源流の円形周溝遺構（11 世紀）

アイヌ文化民俗方位（精神文化）の源流（11 世紀）

道内最古級のシカ送り儀礼跡（10 世紀後半）

道内最古の火打石（11・12 世紀）

アイヌ文化期（13～17 世紀）

道内最古のアイヌ伝統の住居跡（14 世紀前半）

アイヌコタンの全面調査＝民俗方位の確立と現代への変遷（13～17 世紀）

山間部狩猟場での大木に祀る送り儀礼跡（17 世紀中葉）

オニキシベ 2 遺跡：平成 19（2007）・20（2008）年度発掘調査

土坑墓 4 基検出（14 世紀前半）※遺骨あり

アイヌ墓での最古の木棺墓

アイヌ墓標の成立と土坑墓形態の変遷

ニタップナイ遺跡：平成 19（2007）・20（2008）年度発掘調査

シャクシャイン戦争期（17 世紀中葉）の集落跡の発掘調査

＝当時としてはこの時期の調査例は初発見

樽前山噴火の火山災害と住居跡構造の変化を確認

モノ送り場跡の発見

ヲチャセナイチャシ跡：平成 19（2007）～22（2010）年度発掘調査

道内最古級のチャシ跡（13 世紀）＝本来ならば現地保存に値する遺構

※定説は 14 世紀後半以降にチャシ跡が成立＝1 世紀以上定説を遡る発見

土坑墓 2 基検出（13・14 世紀）※遺骨あり

道内最古級のアイヌ墓（13 世紀）＝北方産の錫製耳飾

アイヌ墓出土の鮫革着せ腰刀（14 世紀）

富里 2 遺跡：平成 20（2008）年度発掘調査

町内唯一の陶磁器＝瀬戸・美濃産播鉢（1590～1640 年）

チャシ跡起源の擦文文化期区画遺構の発見（12～13 世紀）

オニキシベ4遺跡：平成 24（2012）年度発掘調査

擦文文化期の集落跡（12 世紀）

 竪穴住居跡から平地式住居跡への移行期（アイヌ文化チセの起源）

 送り儀礼の道内最古の祭壇跡＝アイヌ文化のヌササン源流

アイヌ文化期（詳細年代不明）

 道内初のアイヌ民俗エゾシカ追い込み猟の柵列跡（以後、ショロマ1遺跡・上幌内1遺跡でも検出）

上幌内1遺跡：平成 26（2014）・28（2016）年度発掘調査

擦文文化期～アイヌ文化期の集落跡と送り場跡（10～14 世紀）

中世アイヌ文化期の内耳鉄鍋（13・14 世紀）

上幌内2遺跡：平成 26（2014）・28（2016）年度発掘調査

アイヌ墓5基検出（13・17 世紀初頭）※遺骨あり

 13 世紀アイヌ墓4基 墓標穴成立過程検証例

 17 世紀アイヌ墓1基 土坑墓形態や民俗方位の変遷過程を立証

上幌内3遺跡：平成 25（2013）・26（2014）年度発掘調査

アイヌ墓2基（16・17 世紀）※遺骨あり

儀礼場跡（祭壇・ヌササン）の検出

ショロマ3遺跡：平成 25（2013）年度発掘調査

擦文文化期の鎧埋納遺構検出

ショロマ4遺跡：平成 26（2014）年度発掘調査

擦文文化期の朝鮮半島産銅鉞出土

桜丘チャシ跡：平成 21（2009）年部分調査

15 世紀の戦闘的チャシ跡（アイヌ民族の山城跡）と判明

宇隆1遺跡：平成 26（2014）年度部分調査

昭和 34（1959）年 2 月 常滑壺出土（厚真町郷土研究会採集）

平成 23（2011）年 3 月 常滑壺鑑定結果報道発表・生涯学習だより掲載

 10 月 常滑壺と平泉特別講演会（町教委主催：ゆくり）

 NHKBS プレミアム「平泉 よみがえる黄金都市」紹介

 11 月 町民文化祭展示公開

 12 月 NHK 札幌放送局「北海道古代ミステリー」歴史番組紹介

平成 27（2015）年 10 月 シンポジウム（町教委主催：福祉センター）

ほか道内外での講演・視察多数